野球の練習をしています。どんな強いボールでもとることができるように、キャッチの練習をしたり、すぶりの練習をしたりしています。ホームランを打つためには、まず食じやウエイトトレーニング、地道な練習を何年も続けることが必要だということを知りました。だからいきなりホームランを打つんじゃなくて、少しずつ仙ちゃんのように夢をあきらめずにがんばることが大切なんだと知りました。ぼくはまだホームランは打ったことがないけれど、初めてヒットを打った時のことはしっかりとおぼえています。とても速い球だったけれど、ぼくの打った球はサードを抜けていきました。とても気持ちがよくてうれしくて「もっと打ちたい。」という気持ちになりました。きっとホームランを打ったら、もっと気持ち良くなれるんだろうなと思います。ぼくもいつか場外ホームランを打ってみたいです。そのためにもこれからの練習をがんばろうと心に決めました。

サケのふしぎにせまる　石川拓実

ぼくがこの本を読んで、すごいと思った所は二つあります。

一つ目にすごいと思った所は、サケはふるさとの川に帰って来るという所です。

理由は、川はこの世界にたくさんあるのに、その中の一つの川を当てるのはかなり難しいと思うからです。ぼくがもしサケだったら、そんなことは出来ずに、逆に迷ってしまうと思います。だけどサケは、道をまちがえずに自分のいたふるさとの川に帰ってくるのですごいと思いました。しかしサケがふるさとの川に帰ってくるための方法がまだ分かっていないということです。サケがどのようにしてふるさとの川に帰ってくる方法はまだ分かっていません。ぼくはたぶん、サケの体の中に磁石のような物が入っていて、それでふるさとの川の場所が分かると思っていました。しかし、本を読んでいたら、今の考えは、サケがふるさとの川へ帰るための一番有力な方法ということが分かりました。もしこのような方法でふるさとの川に帰ることができるなら、サケはすごい魚なんだなぁと思いました。

二つ目にすごいと思った所は、子どものサケはえさでなくても、川から流れてくる物なら石でもなんでも食べるという所です。

理由は、川から流れてくる物なら石でもなんでも食べるのは、少しでも長生きをしようと思っているからだと思ったからです。小さいころから一ぴきで生きるのはとても大変だということが分かっているから川から流れてくるものなら石でもなんでも食べるんだとぼくは思います。

ぼくにはきらいな食べ物があります。それは乳製品です。いつも学校で牛乳やチーズなどが出て来る時、がまんして食べるけれど、その後に気持ち悪くなってしまったりするので、できれば食べたくないです。

だけど子どものサケは、好ききらいもせずに川から流れてくる物なら石でもなんでも食べてしまうのですごいと思いました。また、子どものサケはみんなで協力をするということです。サケはサケでもまだ子どものサケなので、一人でなんでもするわけではありません。できないならみんなで協力をします。ぼくは子どものサケなのにみんなで協力をするということができるのでとてもすごいと思いました。

このこと以外にもサケの不思議はたくさんあります。このようなことをして、サケや子どものサケは一日一日をがんばって過ごしています。ぼくにはできないことが小さいサケはできるということはとてもすごいと思いました。だからぼくも一日一日を大切にして生きていきたいと思いました。

佐賀のがばいばあちゃん　池本夢実

拝啓、がばいばあちゃん。天国でも一生懸命働いていますか？孫の昭広さんの活躍に目を細めていますか？〝がばい〟っていうのは佐賀の方言で〝すごい〟っていう意味だそうです。みんなに勇気を与えてくれるすごいばあちゃん、私も勇気をもらった一人です。

8才の昭広さんを預かることになった時は、惑わなかったですか？私が4年生の時、母が入院し、おばあちゃんに面倒をみてもらったのですが、「子育てなんて忘れちゃってるから困ったねぇ。」と言っていました。預かったその日にかまどの火の焚き方を昭広さんに教えたばあちゃん。私は昭広さんをうらやましく思います。だって母が入院した時、私には何も出来なかったのです。おばあちゃんは何でもしてくれたけど私は病気と戦っている母がいない間は自分も何か役に立ちたいと思っていました。がばいばあちゃんは「人生は死ぬまでのひまつぶし、仕事はお金のもらえる最高のひまつぶしばい。」て言ってたけど自分に役割があるって大切な事ですね。役割を与えられた昭広さんは大変だけど、子供扱いされずにばあちゃんの片腕として認められていたのできっとやりがいがあったと思います。

ばあちゃんの家はすごく貧乏だったのに、本を読んでいても〝大変だな〟とか〝つらいだろうな〟という感情が全く起こってきませんでした。昭広さんがお腹が空いたと言えば「夢や。」と言い、川に棒を仕掛けて市場から流れてくる野菜をすくったり、胸を張ってそういう事をするばあちゃんからはみじめな印象が感じられないのです。大人になった昭広さんが、〝お金のない貧乏なんて不幸ではない。心の貧乏がいちばん不幸だ。〟と綴っています。私達はお金に困っていなくても不平不満を言います。友達が持っているゲームソフトを自分が持っていないだけで損をした様な気持ちになります。物があふれている現代では心の貧しい人が増えているように思います。ばあちゃんの「世間に見栄を張るな。」という言葉にはっとさせられました。今の私達の暮らしを見たら、ばあちゃんは怒るかもしれませんね。お金や世間体よりも、自分に正直に納得のいく行動をとることが大事だってわかりました。ありがとうばあちゃん。

ばあちゃん、私はもう一つお礼を言いたい事があります。私は8年間空手をやっているのですが、その中で保育園児や小学生の指導もする立場となっています。なかなかやる気が出ない子や、うまく出来なくてふてくされてしまう子をどうやってやる気にさせるかで悩んでいましたが、ばあちゃんからヒントをもらいました。ばあちゃんは昭広さんの成績が悪くても「国語と社会と英語の1と理科の2を足したら5になる。人生は総合力や。」と言って元気づけていましたね。私はそれを読んで、こんな風に言ってもらえたら劣等感を持たないで又頑張れるだろうなと思いました。その時自分の空手の指導の仕方が悪い所ばかり注意していた事に気づきました。そこで次ぎのけいこの時は少しでも良くなっている所や、その子が頑張っている所を見つけ、「そう、それでいいよ。」と言うようにしました。出来なくて涙ぐんでいる子には、ばあちゃんのまねをして「泣くな、笑顔でやれ。笑顔は宝じゃ！」と言って私自身も笑って見せました。そうしたらみんなやる気になって、私の言う事をしっかり聞いてくれるようになったのです。又、その子のいい所をほめていると私の気持ちも〝この子きっとうまくなる〟とプラス思考に変わってくることがわかりました。日々のけいこの中で、うまくいかない日もありますが、そんな日こそ笑顔でプラスの声かけをして行くように今は心がけています。昭広さんが野球や陸上で力を発揮できたのも、挫折をのり越えて漫才師になれたのも、いつも昭広さんの力を信じて全力で応援してくれるばあちゃんの支えがあったからだと思います。こんなに愛情をかけてもらって昭広さんは本当に幸せだった事でしょうね。

ばあちゃん、中学を卒業した昭広さんが広島へ行ってしまう時には本当につらかったね。思わず「行くなー。」って言ってしまったばあちゃんに私も泣いてしまいました。この前ボランティア活動でデイサービスのお年寄りのお世話をした時、一人ぐらしのお婆さんが「子供が来てるとはずみがいいよ。」って言ってくれたけど、昭広さんがいなくなったらばあちゃんも一人ぐらし。

小学生中学年の部　特選
山中麻由奈（中川根南部小４年）
かわいそうなぞう

小学生高学年の部　特選
山下あかり（本川根小５年）
地雷ではなく花をください

小学生高学年の部　特選
石川拓実（本川根小６年）
サケのふしぎにせまる

中学生の部　特選
池本夢実（本川根中１年）
佐賀のがばいばあちゃん

中学生の部　特選
前川裕音（本川根中１年）
夢をあきらめない

中学生の部　特選
坂下もも（本川根中３年）
ララ親善大使

高校生・一般の部　特選
松山緑里（川根高２年）
アリソン

高校生・一般の部　特選
伊藤将大（川根高２年）
宇宙の謎はどこまで解けたか